

1. 国等のまちづくりの動向

(1) 「WEDO」ウォーカブルなまちなかづくり

- 国土交通省「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」により令和元年6月に発表された中間とりまとめでは、居心地が良く歩きたくなるまちなかを構成する要素の頭文字をとった「WEDO」をスローガンとして、『「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生～都市におけるイノベーションの創出と人間中心の豊かな生活の実現～』が掲げられています。
- 居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成に向けては、WEDOで示される「歩きたくなる歩行者空間の創出（歩行者ネットワークの形成）」と、「多様な人が多様な使い方ができ、開かれた滞在空間の創出（滞在空間の形成）」に加えて、通過交通をまちなか外へ誘導するための外周街路整備などの「都市構造の改変等（道路ネットワークの形成）」の3つの要素を合わせて検討する必要性が示されています。

【「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成のイメージ】

出典：「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」中間とりまとめ報告書（ダイジェスト）／国土交通省

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」形成のイメージ例

※地域特性に応じた取組を、歩ける範囲のエリアで集中的あるいは段階的に推進
※人口規模の大小等を問わず、その特性に応じた手法で実施可能



都市構造の改変等

- 都市構造の改変（通過交通をまちなか外へ誘導するための外周街路整備等）
- 都市機能や居住機能の戦略的誘導と地域公共交通ネットワークの形成
- 拠点と周辺エリアの有機的連携
- データ基盤の整備（人流・交通流、都市活動等に係るデータプラットフォームの構築等）等

居心地が良く歩きたくなるまちなか

Walkable	歩きたくなる	居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。
Eye level	まちに開かれた1階	歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで見えれば、人は歩いて楽しくなる。
Diversity	多様な人の多様な用途、使い方	多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。
Open	開かれた空間が心地良い	歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

1階をガラス張りの店舗にリノベーションし、アクティビティを可視化
民権敷地の一部を広場化（宮崎県日南市）



2つの開発の調協により
一体整備された神社と森（東京都中央区）



駅前トランジットモール化と広場創出（兵庫県姫路市）



道路を上昇した夜間オープンカフェ（福岡県北九州市）



公園を芝生や民間カフェ設置で再生（東京都豊島区）



(2) 駅まち空間の形成

- 「駅まち空間」とは、駅や駅前広場と一体的に、周辺市街地との関係を踏まえ、必要な機能の配置を検討することが期待される空間です。国土交通省が発出する「駅まちデザインの手引き」では、利便性・快適性・安全性・地域性の高いゆとりある「駅まち空間」の形成を目指して、関係者が連携して、ビジョンをつくり、計画策定・整備・維持管理に至るまでの一連のプロセスに関する考え方や進め方が示されています。

【駅まち空間のイメージ】

出典：駅まちデザインの手引き／国土交通省



(3) 居心地が良く歩きたくなる グランドレベルデザイン

- 都市の魅力向上を図るためには、まちなかにおいて多様な人々が集い交流する官民のパブリック空間をウォークアブルな人中心の空間へ転換し「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を推進することが必要です。
- そのためには、沿道建築物の低層内部のアクティビティの可視化や街並みの景観形成、多様な活動を促す環境整備などエリア単位でグランドレベル（街路、公園、広場、民間空地、沿道建物の低層部等、まちなかにおいて歩行者の目線に入る範囲）の形成を進めることが重要です。「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」では、構想・計画段階において必要となるビジョンや体制づくり、アクティビティの誘発や空間の育成・管理の仕組みなども含めた、居心地が良い空間を創るためのデザインのあり方が示されています。

【グランドレベルの範囲】

出典：居心地が良く歩きたくなる グランドレベルデザイン／国土交通省

